

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報には專號詳細なる商況特價の報告あり

時事新報

時事新報

富豪大に動く

世人或は曰く社會の幸福幸福は一般の貧富相平均して
 萬民等しく其生を樂むに在り彼の巨萬の富を積める富
 豪大の如きは多々せず貧富の勢を偏重ならし
 むるものは治安の爲め寧ろ有害物なり云々の説な
 り非ず對建國天下太平四海無事士族は職を世
 々にして世襲に衣食し商工は一國內の商賣製造に従事
 して其業を營み數を多を求めざる時代ならんには一般
 に其富めるものもなく又其貧しきものもなく貧富
 不均 懸絶々々として萬民共に太平の春を樂むを得べ
 し富豪大ありと雖も巨萬の富を積むるを以てに所な
 くして始も實の持腐と同様の次第なれば之を無益視す
 るも或は可ならん然れども既に一國を開放して外交の
 道を廣くし次第に進んで文明の競争場裡に入り商賣に
 工業以て世界を相手にして大に争はんとする今日の世
 態を爲りては先だつものは資本の投入にして差當り大
 資本家の必要を感ぜざるを得ず或は資本の供給は必す
 一人の出金は何千何百の小額にても細々積んで山を成せ
 ば自から大資本を得るに難からず現在の諸會社は孰れ
 も此趣向にして實業の實際に差支なきに非ずや論より
 證據にして特に大家に依るるの必要なしとの説われ
 るも畢竟世の趨勢たるに過ぎず云々の目的にして云々
 の辨論なり是を先づ豫算より割出して資本を募るが如
 き然るに其の事業には株式會社の組織も適當ならん
 れども世界商工の動かし難きを敢て相対して一舉に勝
 敗を決し或は他の知ざるに先んじて奇計を運らざる勝
 利を制するが如き組織の操引は株式會社には到底望
 む可らざる所にして大資本家の自由運動に一任せざる
 を得ず唯へば政府の事にして通常の政令法律を發す
 るの場合には先づ議會の協賛を求むる等 夫れ一
 手操を要すれども外交の機密 宣戰議和の決断の如きは
 志を大權の自由に一任して苟も他の容喙を許さざるが
 如も我輩は愈し其點よりして今の社會に富豪大のます
 く多くして其運動のすすく活潑ならんことを望む
 のなり蓋し富豪大の社會の表面に立つ其有様は猶ほ
 森林の大木の如し重たき樹皮を纏ひて日光を蔽ひ雨露を
 遮り爲めは樹邊に生々草木の發育を妨るの害は幾
 分免れざらん然るも其樹皮の水分を吸收して大に
 水分を蓄ひ乾燥する樹幹は自から腐爛を成して暴風を
 防ぐ其衰産の偉大なるは自から掩ふ可らざる所のもの
 なり然るに其樹幹に其小書を云々して大効能を認め
 ざるは決して公衆の愚解に非ざらん然れども又一方
 には其見れば富豪大が其大に運動して其大能を一
 般に示すの機會なかりは遺憾なりと云ふべし是れま
 ず富豪大の自白自ら其業を全うするも其後種なり成
 りは世間小資本の輩が何等の業を全てながら自から力

明治廿八年十月十四日 金曜日
 舊曆乙未八月十六日 (甲申)
 日出版五時三十分
 月出版五時三十分
 入内五時三十分
 西曆一千八百九十五年
 (西曆一千八百九十五年)
 年刊七百七十
 八十八日

足らざるか又は經濟社會の不安に遭んで維持に苦し
 むなるとの場合に至り大家は恰も他に注付かれて辭する
 を得ず不本意ながら其事業を引受けて自から經營する
 なを畢竟消極的の運動にして進取活潑の風なかりし
 かども今や日本の社會は非常に發達して國內の企業の
 如き敢て大家の力を要せざるのみか實際その力を要す
 可き大事業も乏し其反對に頗る海外の近情を見れ
 ば競争の大勢ますます切迫して最早寸寸の御強を容
 るるに其中にも差當り日清競争の結果として支那内地
 の商賣企業は恰も世界競争の標點となり遂に自から
 進んで取らざるべきは他に機先を制せられんとするの
 實勢を呈したり是れ豈に我富豪大が大に奮發して其
 大効能を社會に示すの時機に非ずや此時機に際し進ん
 で自から利して兼て國を益するの大企圖は其運動の自
 由活潑なる大資本家の外に求む可らず國民一般に望を
 屬する所なり然るを尙ほ孤絶觀望して決するも能は
 ず國內に盤居して内々小利を漁るが如き態度がもたら
 ば世間の非難はますます聲を高くして富豪大家は堪し
 て有害の毒物なりなど評するものもある我輩は掃除の
 辭なきに苦しむものなり

米國近來の景氣

昨年米國に於ける商業上の恐慌は頗る慘酷を極め
 其餘餘水も存して容易に景氣恢復の様相を現ししも
 漸く趨きたりと見え近來は諸般の商工業頗る振起し
 勢動の景氣も既に三割を高めたりとの報は同國諸新聞
 紙の傳ふ所なり今頃頃米國より歸朝せる人の語る所
 に依れば米國に在留する日本人二千餘名、此内多
 くは他は雇はれて家内の勞働に従事するものなるが故
 先年來の不景氣には頗る奉公日を絶たれて爲す事も無
 く米港の下宿屋は不遇を蒙るのみならず近來景氣の
 恢復と共に是等壯年者の需要も起り賃氣も從つて騰貴
 し従來一日一弗のものは一弗三十仙に増し幾人にて
 必要ある勢なれば今は米港の市中に此流の日本入眞
 影を留めずなりたりと云ふ又頃頃ワシントン港より
 歸朝する労働者も多し孰れも多少の儲へなきは無く多
 くは三四千弗を所持する者あり是等労働者の斯く利
 益を得て歸朝したる次第を聞くに殊に漁業に従事する
 漁師に對しては驚かされども一昨年來の不景氣に遠く
 漁師の儲積も頗る減つたが故に米國に歸朝するに
 尤も有難なるよ漁業の労働者は需要なく枯乏氣風に遭
 るの幾況なりしに近頃には更なる景氣恢復と共に漁師の
 需要も倍に増し何程製魚するも需用に應ずる能はざる
 漁師もかりたればワシントン河にて魚の漁獲に従事せる
 日本漁師も一昨年来は頗る減少し漁業の利益を占
 む國中大に墜落となりたるは頗る遺憾なりと云ふ
 益を獲取せんとはせし見は角一應歸朝せしとの念を
 生じて歸朝するものありと云ふ是等の實況を聞いて
 も本年米國大體の景氣大に恢復したるを想見すべしと
 云ふ

威海衛總督の建築

威海衛總督の建築は威海衛鎮守使を容るべき
 附屬の建築に付き世間にて風評する所に據れば其設計
 はパルク法に基きて箱々屋なるものとし二百萬餘
 の材料を悉皆内地より持ち寄らざるは材料の購買に
 三十萬圓、工の給料其他に三十萬圓合計六十萬圓
 除を要する蓋し大規模なるものありは實際は少しく
 異りて右附屬の坪數は總て二萬五千餘坪にして經
 費の豫算は材料の購買工の給料、旅費、糧食費等悉
 皆合計して五十萬圓を支出せざるべしと云ふ而して
 右建築に従事する各職工は實地試験の上擲言之を準
 りて去月甲旬より二十九月迄は漸次出發せざるべし
 る由なる其職工の種類は加工、高層建築、燈塔、掘工
 井戸掘補給、煉瓦師 (是れは開府を造る爲めにて其
 數約) 等總數二千三百八十八にして成規の如く五十人
 長官人長を設けて都督を明にし又掛員は連隊一等軍吏
 浦田三等軍吏其他技師、工員等二十名内外派遣せ
 られ器具材料の備置運搬等に要する人夫は内地より運
 寄るとし經費の計を以て上陸後軍用支那人を雇
 するもその其用向を便する爲め別に通譯官十名を派
 遣したるよし以上の職工及び掛員は目的地に上陸後
 半里遊歩は五里半を距て諸所に分れ工事に着手す
 る由ならは建築の進捗も此距離内に在るとなるべ
 一總令渡の建築工事は離隊後軍用支隊の懸念を以
 て成るべく冗費を省く方針を執り其材料等は悉く内地
 より輸送するに相違なきも過度に中宇品其他の軍需
 品運送に用する木材にして目下使用の用途なきものを
 運送使用せしむるに全體的設計圖案は駐屯兵の起臥
 に不自由なく防衛に支障なきを程度として警へは壁間
 に土を盛るが如き建築上防衛の手段は綿密に注意した
 るも外觀の虚飾は總て除去するを以て至極質素の建築
 なりと云ふ而して其竣工期は百日間の豫定にして先
 づ工二千三百人操縦の方法は頗る嚴密にして實物に就
 き各本人の不能を見定めたる上採用せしものなれば
 随分手数は掛かる由なればとも仕事運びは必ず速か
 るべしと云ふ

西伯利鐵道用材の運搬

西伯利鐵道用材の運搬 新嘉坡の或る新聞
 の報に據れば英國商船「アイサー」號は去月十三日西伯利
 鐵道に使用する鐵軌、橋梁材、汽關車等を積り積
 載して同港へ着きたり是迄に右と同様の貨物を積載し
 て浦羅斯德港へ赴きしものは露國義勇隊の船隻を除
 きて二回にして即ち今回のものと共に都合三回なり尙
 はオビ號及び諸船「イガー」號も積りてセントヒータ
 ー「スバル」号より浦羅斯德港へ鐵道用材を運搬するよ
 しなれば本年中途時に汽船を雇ひ西伯利へ送附する額
 は凡そ二萬噸に上るなる可しと云ふ

歐洲高山氣象

歐洲高山氣象 歐洲には従來高山氣象の
 設計をなさしが近頃ブリスベン氣象局長ラウグ氏深
 洲地理學協會に高山氣象觀測所設置の議を提出し政府
 も亦此議を採り遂にタスマニア州コホーバート市を距
 る四哩のウェリントン山に氣象臺を設くることとなり
 は其建築を終りたる高山は高さ二千二百七十米に及
 びて觀測所は觀測上頗る好位なりと云ふ又之に對する
 觀測所はポートバート市に設け尙は其間にスプリ
 ングを築き高さ七百六十米の場所にも補助觀測所を設
 けることなりと云ふ

日本郵船會

日本郵船會 十二日
 白耳義は歐洲強國
 白耳義は歐洲強國
 白耳義は歐洲強國
 白耳義は歐洲強國

海外

海外 十二日
 白耳義は歐洲強國
 白耳義は歐洲強國
 白耳義は歐洲強國
 白耳義は歐洲強國